

船舶事故調査報告書

平成28年9月29日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成28年3月27日 14時38分ごろ
発生場所	広島県三原市能地漁港（みはら能地フィッシャリーナ内） 高根島灯台から真方位272° 3,600m付近 （概位 北緯34° 20.1′ 東経133° 02.3′）
事故の概要	プレジャーボート蒼帆号は、係留中、また、プレジャーボートクリーブランドは、出航中、両船が衝突した。 蒼帆号は、船外機カバーに破損等を生じ、また、クリーブランドは、船首部外板に擦過傷等を生じた。
事故調査の経過	平成28年3月29日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 蒼帆号、1.8トン（長さ5.78m） 273-11771広島、個人所有 B プレジャーボート クリーブランド、5トン未満（長さ5.38m） 273-3862広島、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、一級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型
負傷者	なし
損傷	A 船外機カバーに破損等 B 船首部外板に擦過傷等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 4、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期
事故の経過	A船は、船長A及び同乗者1人が乗船し、‘みはら能地フィッシャリーナ’（以下「能地マリーナ」という。）の係留施設で、船首を北西方に向け、B船の左舷側に係留していた。 B船は、船長Bが1人で乗り組み、同乗者1人を乗せ、船長Bが、能地マリーナの出口に船首を向けようと右舵を取りながら機関を後進にかけて離岸中、船尾が係留中の船舶に接近したので、後進行きあしを止めようと思って機関を前進としたところ、前進行きあしがつき、船首方のA船に衝突した。
分析	B船は、船長Bが、前進を止める時機が遅れたことから、係留中のA船に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、B船の船長Bが、前進を止める時機が遅れたため、前進行きあしがつき、係留中のA船に衝突したことにより発生したものと

	考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 出入航する際は、周囲の船舶への接近状況を確認すること。